

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議
					町立病院 総務課長 保健福祉課長

別記様式第 4 号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	
		決裁期日	令和 2 年 1 0 月 1 9 日
名 称	まちづくりトーク テーマ「町立病院改築基本構想」		
日 時	令和 2 年 1 0 月 1 6 日(金) 午後 6 時 3 0 分～午後 7 時 4 3 分		
場 所	保健福祉総合センターかみん 多目的ホール		
出席者	出席者： 2 4 名 町：説明者) 向山町長、石田副町長、北川町立病院事務長、長岡町立病院施設整備室長、宮下総務課長、鈴木保健福祉課長		
内 容	<p>18 時 30 分開始</p> <p>1 開会 石田副町長の司会により進行</p> <p>2 町長挨拶</p> <p>向山町長：町の行政推進に対してご理解、ご協力いただきお礼申し上げる。新型コロナウイルス感染症対策等では皆さまにご不便をかけている。町としても、諸政策を講じているが、終息しないことには以前の生活に戻れない。引き続きご協力いただきたい。町立病院改築基本構想がまとまったことから、皆さまからご意見をいただき、町の発展に直結する整備を行っていききたい。ご協力お願い申し上げます。</p> <p>3 「町立病院改築基本構想」の概要説明を長岡町立病院施設整備室長から資料に沿って説明。</p> <p>4 質疑・意見交換</p> <p>・新町立病院ができることに喜んでいる。コロナ禍のなかオンライン診療について耳にするが、検討しているのか。訪問看護、訪問介護の連携について、地域包括ケアシステムを構築する観点からも新病院建設にあたって考える必要がある。平成 31 年 3 月に配布されたハザードマップでは、子どもセンターは水害の場合 50 c m の濁流が流れることになっているが、新病院はかさ上げして建築するのか。</p> <p>北川町立病院事務長：オンライン診療については、コロナ禍のなかで推進されて</p>		

いることは承知している。町においても、終息について不明確な状況なので、研究検討していく。訪問介護、訪問診療の連携について、これから病院と在宅介護部門、保健福祉課などと調整しながら検討を進める。子どもセンターの位置については、浸水の恐れがある地域だと承知している。現病院は約1mかさ上げしている。引き続き災害拠点病院として防災担当と協議しながら、対策は万全にしていきたい。

石田副町長：オンライン診療については、新病院と関係なく、対応すべきことと考えている。浸水想定については防災担当から病院建設にあたり、対応するよう指示している。どのような形が一番有効かを基本計画のなかで対応していく。

鈴木保健福祉課長：地域包括ケアシステムと町立病院の連携について、現在町立病院、訪問看護ステーション、保健福祉課で連携し適切に対応している。さらなる医療と介護の連携が図れる施設になるよう調整を図っていく。

- ・災害時の医療物資や災害物資を運搬する道路について疑問がある。道路をかさ上げすることで対応できると思うが、相当なお金がかかると思うので、優先順位を決めながらやっていただきたい。

- ・子育て中の母親です。現子どもセンターに病院を建設予定だが、子どもセンターはどうなるのか。

鈴木保健福祉課長：子どもセンターについては、児童発達支援と子育て支援の2つの機能を集約している。この機能を分け、発達支援は専門施設で指導を受けられる機能を確保していく。子育ての拠点施設については、多くの子育て中の方がいることから1カ所にまとめるよりも、保健福祉総合センター、町内にある2つの児童館をはじめ、ほかの公共施設を有効活用しながら環境を整えていきたい。子育て中の方々と意見交換をしながら方向性を探っていく。ご意見をいただきたい。

- ・関係機関、子育てに関わっている方など皆さんの声を聴いていただきたい。

- ・地域で子育てに関して何かできることないかと、こどもサポートの講習を受けたなかで、地域でできる子育て支援の考え方、町長が日頃から言われている「切れ目のない子育て支援」に気付いた。子育て支援、地域で育む子育て環境について現場の声を聞きながら、一緒に考え、作り上げられる話し合いの場を持っていただきたいと思う。

鈴木保健福祉課長：支援が切れたら、全ての人に対しての行政サービスの低下に関わる。子どもから高齢者までの福祉、医療、介護合わせて町立病院、関係機関と連携して進めていく。行政だけでは進むことができない。そのためには皆さまとの意見交換、情報交換をしながら、よりよい子育ての支援体制を整えていきたい。

石田副町長：さまざまな施策で町民の皆さまと意見交換をする機会があり、参加

していただき意見をいただくことが必要である。参加できなかった方々の声なき声を受け止めることも大切と考えている。今後も機会を通じて、いろいろなお声をいただけたらと思う。

- ・以前、住宅や建築の仕事をしていた。今後の計画の中で「ヒーリングガーデン」を重要視してほしい。病院の利用者以外にも、地域の方も庭を利用できるもの、待ち時間でも見て楽しめる外構のプランを考えてほしい。

救急の出入り口である北 24 号の狭い踏切が気になる。踏切を広げるのかなどを含めて考えてほしい

北川町立病院事務長：ヒーリングガーデンの設置については、患者の待ち時間、介護医療院の入所者の方にも憩いの場となると思う。基本計画・基本設計のなかで検討する。北 24 号道路の救急の出入り口は、町立病院から協会病院、旭川への病院へ転送する場合に、町なかを通らずに国道を出られることで設定した。踏切の改修は、多大な事業費がかかることから今後の検討課題とさせていただく。

- ・町立病院が新しくなることは大変喜ばしい。財源について具体的に教えてほしい。

北川町立病院事務長：基本構想の段階では、外構の取り壊しなど含めて総額 37 億円を提示したが、先進地事例の病院、国の単価などから算出した数字。今後、基本計画・基本設計のなかで事業費は精査される。病院事業については、営利事業として国の補助メニューがほとんどない状態であることから、財源の多くは地方債、借金になる。補助金が全くないわけではないので、有利な補助金を研究し、町民の方への負担が少なくなるような計画にしたい。

(意見交換・質疑終了)

## 5 閉会

向山町長：町民の皆さまに安心・安全な医療を提供がまちづくりにはかせないと認識している。これから計画の精度を高め、内容をお知らせしたい。将来大変よい事業だったと評価していただけるよう取り組んでいく。これからもご意見をいただきたい。

19 時 43 分終了